

令和2年度 神戸大学2次試験前期日程(数学問題)120分  
理・工・医(医・保健(検査技術科学))・農・  
国際人間科学(環境共生(理科系))・海事科学

問題 1 2 3 4 5

1  $\alpha$  は実数とし、 $f(x)$  は係数が実数である3次式で、次の条件 (i), (ii) をみたすとする。

- (i)  $f(x)$  の  $x^3$  の係数は1である。  
(ii)  $f(x)$  とその導関数  $f'(x)$  について、

$$f(\alpha) = f'(\alpha) = 0$$

が成り立つ。

以下の問に答えよ。

- (1)  $f(x)$  は  $(x - \alpha)^2$  で割り切れることを示せ。  
(2)  $f(\alpha + 2) = 0$  とする。  $f'(x) = 0$  かつ  $x \neq \alpha$  をみたす  $x$  を  $\alpha$  を用いて表せ。  
(3) (2) の条件のもとで  $\alpha = 0$  とする。  $xy$  平面において不等式

$$y \geq f(x) \quad \text{かつ} \quad y \geq f'(x) \quad \text{かつ} \quad y \leq 0$$

の表す部分の面積を求めよ。

2  $\theta$  を  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  をみたす実数とし、原点  $O$ ,  $A(1, 0)$ ,  $B(\cos 2\theta, \sin 2\theta)$  を頂点とする  $\triangle OAB$  の内接円の中心を  $P$  とする。また、 $\theta$  がこの範囲を動くときに点  $P$  が描く曲線と線分  $OA$  によって囲まれた部分を  $D$  とする。以下の問に答えよ。

- (1) 点  $P$  の座標は  $\left(1 - \sin \theta, \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta}\right)$  で表されることを示せ。  
(2)  $D$  を  $x$  軸のまわりに1回転させてできる立体の体積を求めよ。

3 以下の問に答えよ。

- (1) 和が30になる2つの自然数からなる順列の総数を求めよ。  
(2) 和が30になる3つの自然数からなる順列の総数を求めよ。  
(3) 和が30になる3つの自然数からなる組合せの総数を求めよ。

4  $n$  を自然数とし,  $2n\pi \leq x \leq (2n+1)\pi$  に対して  $f(x) = \frac{\sin x}{x}$  とする. 以下の間に答えよ.

(1)  $f(x)$  が最大となる  $x$  の値がただ1つ存在することを示せ.

(2) (1) の  $x$  の値を  $x_n$  とする. このとき,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{\tan x_n}$  を求めよ.

5  $p$  を2以上の自然数とし, 数列  $\{x_n\}$  は

$$x_1 = \frac{1}{2^p + 1}, \quad x_{n+1} = |2x_n - 1| \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

をみたすとする. 以下の間に答えよ.

(1)  $p = 3$  のとき,  $x_n$  を求めよ.

(2)  $x_{p+1} = x_1$  であることを示せ.

## 解答例

1 (1) 条件 (i) から

$$f(x) = (x - \alpha)^2(x - \beta) + px + q$$

とにおいて, これを微分すると

$$f'(x) = 2(x - \alpha)(x - \beta) + (x - \alpha)^2 + p$$

条件 (ii) から

$$f(\alpha) = p\alpha + q = 0, \quad f'(\alpha) = p = 0 \quad \text{ゆえに} \quad p = q = 0$$

したがって  $f(x) = (x - \alpha)^2(x - \beta) \cdots \textcircled{1}$

よって,  $f(x)$  は  $(x - \alpha)^2$  で割り切れる.

(2)  $f(\alpha + 2) = 0$  および  $\textcircled{1}$  より,  $\beta = \alpha + 2$  であるから

$$f(x) = (x - \alpha)^2(x - \alpha - 2) \quad (\text{A})$$

これを微分すると

$$\begin{aligned} f'(x) &= 2(x - \alpha)(x - \alpha - 2) + (x - \alpha)^2 \\ &= (x - \alpha)\{2(x - \alpha - 2) + (x - \alpha)\} \\ &= (x - \alpha)(3x - 3\alpha - 4) \end{aligned} \quad (\text{B})$$

したがって,  $f'(x) = 0$  かつ  $x \neq \alpha$  をみたす  $x$  は

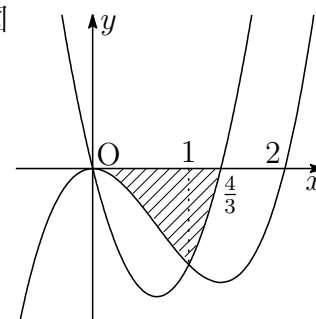
$$3x - 3\alpha - 4 = 0 \quad \text{すなわち} \quad x = \alpha + \frac{4}{3}$$

(3) (A), (B) に  $\alpha = 0$  を代入すると

$$f(x) = x^2(x - 2), \quad f'(x) = x(3x - 4)$$

$y \geq f(x)$ ,  $y \geq f'(x)$ ,  $y \leq 0$  の表す領域は, 右の図の斜線部分でその面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^1 \{-f(x)\} dx + \int_1^{\frac{4}{3}} \{-f'(x)\} dx \\ &= \int_0^1 (-x^3 + 2x^2) dx + \int_1^{\frac{4}{3}} (-3x^2 + 4x) dx \\ &= \left[ -\frac{x^4}{4} + \frac{2}{3}x^3 \right]_0^1 + \left[ -x^3 + 2x^2 \right]_1^{\frac{4}{3}} = \frac{65}{108} \end{aligned}$$

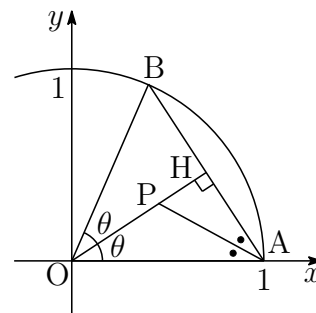


■

2 (1)  $A(1, 0)$ ,  $B(\cos 2\theta, \sin 2\theta)$

直線  $OP$  と辺  $AB$  の交点を  $H$  とすると,  $H$  は  $AB$  の中点であるから

$$\begin{aligned}\vec{OH} &= \left( \frac{1 + \cos 2\theta}{2}, \frac{\sin 2\theta}{2} \right) \\ &= (\cos^2 \theta, \sin \theta \cos \theta)\end{aligned}$$



$OH \perp AH$  であるから  $AH = \sin \theta$

$AP$  は  $\angle OAH$  の二等分線であるから

$$OP : PH = OA : AH = 1 : \sin \theta$$

$$\begin{aligned}\text{したがって } \vec{OP} &= \frac{OP}{OP + PH} \vec{OH} = \frac{1}{1 + \sin \theta} (\cos^2 \theta, \sin \theta \cos \theta) \\ &= \left( 1 - \sin \theta, \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta} \right)\end{aligned}$$

よって, 点  $P$  の座標は  $\left( 1 - \sin \theta, \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta} \right)$

別解 点  $P$  の  $y$  座標は  $\triangle OAB$  の内接円の半径に等しいから

$$\begin{aligned}\frac{1}{2}(OA + OB + AB)y &= \frac{1}{2}OA \cdot OB \sin 2\theta \\ \frac{1}{2}(1 + 1 + 2 \sin \theta)y &= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \sin 2\theta\end{aligned}$$

ゆえに  $(1 + \sin \theta)y = \sin \theta \cos \theta$  これから  $y = \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta}$

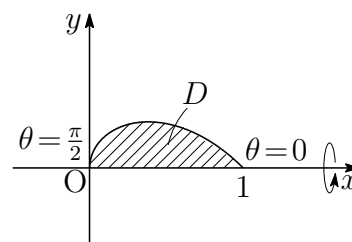
また,  $\frac{y}{x} = \tan \theta$  であるから

$$x = \frac{y}{\tan \theta} = \frac{\sin \theta \cos \theta}{(1 + \sin \theta) \tan \theta} = \frac{\cos^2 \theta}{1 + \sin \theta} = 1 - \sin \theta$$

(2) (1) の結果から

$$x = 1 - \sin \theta, \quad y = \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta}$$

$$\text{ゆえに } \frac{dx}{d\theta} = -\cos \theta \quad \begin{array}{|c|c|} \hline x & 0 \rightarrow 1 \\ \hline \theta & \frac{\pi}{2} \rightarrow 0 \\ \hline \end{array}$$



$D$  を  $x$  軸のまわりに 1 回転させてできる立体の体積を  $V$  とすると

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_0^1 y^2 dx = \int_{\frac{\pi}{2}}^0 \left( \frac{\sin \theta \cos \theta}{1 + \sin \theta} \right)^2 (-\cos \theta) d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin^2 \theta \cos^3 \theta}{(1 + \sin \theta)^2} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\sin^2 \theta \cos \theta (1 - \sin \theta)}{1 + \sin \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\cos \theta \{ (1 + \sin \theta)(-\sin^2 \theta + 2 \sin \theta - 2) + 2 \}}{1 + \sin \theta} d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left\{ (-\sin^2 \theta + 2 \sin \theta - 2) \cos \theta + \frac{2 \cos \theta}{1 + \sin \theta} \right\} d\theta \\ &= \left[ -\frac{1}{3} \sin^3 \theta + \sin^2 \theta - 2 \sin \theta + 2 \log(1 + \sin \theta) \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= 2 \log 2 - \frac{4}{3} \end{aligned}$$

$$\text{よって } V = \pi \left( 2 \log 2 - \frac{4}{3} \right)$$

別解  $x = 1 - \sin \theta$  より,  $\sin \theta = 1 - x$  であるから

$$\begin{aligned} y^2 &= \frac{\sin^2 \theta \cos^2 \theta}{(1 + \sin \theta)^2} = \frac{\sin^2 \theta (1 - \sin^2 \theta)}{(1 + \sin \theta)^2} \\ &= \frac{(1 - x)^2 \{ 1 - (1 - x)^2 \}}{(1 + 1 - x)^2} = \frac{(1 - x)^2 x (2 - x)}{(2 - x)^2} \\ &= \frac{(1 - x)^2 x}{2 - x} = \frac{(2 - x)(-x^2 - 1) + 2}{2 - x} \\ &= -x^2 - 1 + \frac{2}{2 - x} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{したがって } \frac{V}{\pi} &= \int_0^1 y^2 dx = \int_0^1 \left( -x^2 - 1 + \frac{2}{2 - x} \right) dx \\ &= \left[ -\frac{x^3}{3} - x - 2 \log(2 - x) \right]_0^1 = 2 \log 2 - \frac{4}{3} \end{aligned}$$

■

- 3** (1) 30個の○を一行に並べ、その間の29か所から1か所に仕切りを作る場合の総数に等しいから

$${}_{29}C_1 = 29 \text{ (個)}$$

- (2) 30個の○を一行に並べ、その間の29か所から2か所に仕切りを作る場合の総数に等しいから

$${}_{29}C_2 = \frac{29 \cdot 28}{2 \cdot 1} = 406 \text{ (個)}$$

- (3) 和30になる3つの自然数の組合せについて

(i) 3数が等しいものが  $\{10, 10, 10\}$  の1組

(ii) 2数だけが等しいものが、次の13組

$$\{1, 1, 28\}, \{2, 2, 26\}, \dots, \{9, 9, 12\}, \{11, 11, 8\}, \dots, \{14, 14, 2\}$$

(iii) 3数がすべて異なるものが、 $n$ 組とすると、(i)、(ii)および(2)から

$$1 + 13 \cdot 3 + n \cdot 3! = 406 \quad \text{これを解いて} \quad n = 61 \text{ (組)}$$

よって、求める組合せの総数は、(i)~(iii)から

$$1 + 13 + 61 = 75 \text{ (組)}$$

- 4** (1)  $f(x) = \frac{\sin x}{x}$  を微分すると  $(2n\pi \leq x \leq (2n+1)\pi)$

$$f'(x) = \frac{x \cos x - \sin x}{x^2}$$

$g(x) = x \cos x - \sin x$  とおくと、 $2n\pi \leq x \leq (2n+1)\pi$  において

$$g'(x) = -x \sin x < 0$$

$g(x)$  は単調減少、 $g(2n\pi) = 2n\pi$ 、 $g((2n+1)\pi) = -(2n+1)\pi$  であるから

$$g(c) = 0, \quad 2n\pi < c < (2n+1)\pi$$

を満たす  $c$  がただ一つ存在する。したがって

$x$	$2n\pi$	$\dots$	$c$	$\dots$	$(2n+1)\pi$
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$	0	$\nearrow$	極大	$\searrow$	0

よって、 $f(x)$  が最大となる  $x$  の値がただ1つ存在する。

(2)  $g\left(\left(2n + \frac{1}{2}\right)\pi\right) = -1$  であるから,  $c$ , すなわち,  $x_n$  は

$$f'(x_n) = 0, \quad 2n\pi < x_n < \left(2n + \frac{1}{2}\right)\pi$$

上の第1式から

$$\frac{x_n \cos x_n - \sin x_n}{x_n^2} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad x_n \cos x_n = \sin x_n$$

さらに第2式から,  $\cos x_n \neq 0$  であることに注意して

$$x_n = \frac{\sin x_n}{\cos x_n} = \tan x_n \quad \text{ゆえに} \quad 2n\pi < \tan x_n < \left(2n + \frac{1}{2}\right)\pi$$

したがって  $\frac{1}{\left(2 + \frac{1}{2n}\right)\pi} < \frac{n}{\tan x_n} < \frac{1}{2\pi}$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{\left(2 + \frac{1}{2n}\right)\pi} = \frac{1}{2\pi}$  であるから, はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n}{\tan x_n} = \frac{1}{2\pi}$$

■

**5** (1)  $p = 3$  のとき,  $x_1 = \frac{1}{2^3 + 1} = \frac{1}{9}$  より

$$x_2 = \left|2 \cdot \frac{1}{9} - 1\right| = \frac{7}{9}, \quad x_3 = \left|2 \cdot \frac{7}{9} - 1\right| = \frac{5}{9}, \quad x_4 = \left|2 \cdot \frac{5}{9} - 1\right| = \frac{1}{9}$$

$x_4 = x_1$  であるから

$$x_n = \begin{cases} \frac{1}{9} & (n \equiv 1) \\ \frac{7}{9} & (n \equiv 2) \\ \frac{5}{9} & (n \equiv 0) \end{cases} \pmod{3}$$

(2)  $2 \leq q \leq p$  のとき

$$x_q = \frac{2^p - (2^{q-1} - 1)}{2^p + 1} \quad \dots (*)$$

が成立することを数学的帰納法により示す.

[1]  $q = 2$  のとき

$$x_2 = \left| 2 \cdot \frac{1}{2^p + 1} - 1 \right| = \left| \frac{2 - 2^p - 1}{2^p + 1} \right| = \frac{2^p - 1}{2^p + 1}$$

したがって,  $q = 2$  のとき成立する.

[2]  $q = k$  のとき ( $2 \leq k \leq p$ ), (\*) が成立すると仮定すると

$$\begin{aligned} x_{k+1} &= \left| 2 \cdot \frac{2^p - (2^{k-1} - 1)}{2^p + 1} - 1 \right| \\ &= \left| \frac{2 \cdot 2^p - 2^k + 2 - (2^p + 1)}{2^p + 1} \right| \\ &= \left| \frac{2^p - (2^k - 1)}{2^p + 1} \right| = \frac{2^p - (2^k - 1)}{2^p + 1} \end{aligned}$$

したがって,  $q = k + 1$  のときも (\*) は成立する.

よって,  $2 \leq q \leq p$  である整数  $q$  について, (\*) は成立する.

この結果から,  $q = p + 1$  のとき

$$\begin{aligned} x_{p+1} &= |2x_p - 1| = \left| 2 \cdot \frac{2^p - (2^{p-1} - 1)}{2^p + 1} - 1 \right| \\ &= \left| \frac{2^p + 2 - (2^p + 1)}{2^p + 1} \right| = \frac{1}{2^p + 1} = x_1 \end{aligned}$$

